

壊れゆく“若者たち”

File.70 デジタル症候群 ～取り返しのつかない
告げ口社会

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

情報化社会の便利さの裏側で、現代はとても残酷な状況にあります。先日、奈良県奈良市の30歳の男性職員が近鉄奈良駅の構内で、ホームからホームへジャンプしている動画がSNSにアップされたことで、大炎上が起こりました。

一見、これまでであったような悪ふざけ動画をSNSに投稿することで、人たちを知らない第三者が面白がって拡散する事例に過ぎないと感じました。しかし、これには危惧するところがあり、常識的に考えたら、あつてはならないことから炎上しているのです。人には「若気の至り」や「いつときの群集心理」に駆られる状態が誰しもあるはずです。

実際、人に見せてはならないことをしてしまった経験は、世の中の多くの人にあると思われれます。問題はそれをSNSに上げるといふ行為です。面と向かつて起きていることなら「こら！」と叱られてその場で済むだけのことが、ネット上だと拡散され大問題になり、当事者が特定され、学校や職場を辞めるといふ事態にまで発展します。今聞



Profile

東京都大田区生まれ。
英国ウエールズ大学 MBA (経営管理修士)。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
株式会社クロス取締役 COO。
長年コールセンター運営に携わり、人とのコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
beca1103-6420-2088
[http://www.beall.jp]

題になっていくことは、以前から全国各地でたくさん行われてきたのではないのでしょうか。

ここで敢えて言いたいのは、こういった事態に関して多くの人がよく考えるべきだ、ということ。悪ノリはもちろんだめです。具体的に実害が出ていたらなおさらです。しかし、内容にもよりますが、当事者の一瞬の出来心は、その人の人生を抹殺するレベルのことなのではないか。

ネット社会の大きな闇であると感じます。一つでもミスをする社会から抹殺されるのです。

日本の民族的特性とも言える「出る杭を打つ文化」「足を引っ張り合う文化」が、そのままネットの社会に反映されてしまっています。このように一人の人間を不特定多数が吊るし上げるとい

う事態は、人生におけるほんの僅かな悪ふざけであっても、一人の人間に一生消えない傷を負わせてしまいます。

最も考えなくてはいけないのは、問題行動を起こす人ではなく、それを受け取る世間の人々のモラルにあるのではないかと感じます。

